

平成29年9月14日

第1回 美幌町総合教育会議 議事録

美 幌 町 教 育 委 員 会

第1回美幌町総合教育委員会 議事録

1 開催日時 平成29年9月14日(木)

〔 開会 16時00分
閉会 17時04分

2 場 所 美幌町議会第1・2議員控室

3 出席者

(構成員) 美幌町長 土谷耕治
美幌町教育委員会
教育長 平野浩司
教育長職務代理者 加藤哲彦
委 員 猪本里美
委 員 久山昌樹
委 員 小川慶子

(構成員以外の出席者)

美幌町
総務部長 広島学
総務部政策主幹 小室秀隆
美幌町教育委員会
教育部長 田村圭一
学校教育主幹 以頭隆志
指導主事 三浦正
学校給食主幹 石田勇一
社会教育主幹 露口哲也
町民会館建設主幹 斉藤浩司
スポーツ振興主幹 浅野謙司
博物館長 鬼丸和幸
図書館長 長塚好和
学校教育グループ主査(学校教育担当)
横山昌邦
学校教育グループ主査(総務担当)
高橋美奈子

(傍聴者) なし

1 開 会

○田村教育部長 皆さまお疲れ様です。只今から、平成29年度第1回美幌町総合教育会議を開催いたします。本日は、会議次第3の教育委員紹介までの議事進行につきまして私が進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日は、29年度はじめての会議となりますが、本会議につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項の規定により、原則公開とするものでございます。

このため、本日の会議は公開するということで確認をしたいと思いますが、これについてご異議ございませんか。

○構成員一同 （異議なしの声あり）

○田村教育部長 それでは、会議は公開で進めることとさせていただきます。

お手元の次第に基づきまして、会議を進行させていただきます。

2 挨 拶

○田村教育部長 会議次第2、挨拶であります。はじめに会議の主宰者であります、土谷町長からご挨拶をいただきます。町長、よろしくお願いいたします。

○土谷町長 どうもご苦労様でございます。第1回となります総合教育会議にお集まりをいただきまして心から感謝を申し上げたいと思います。すでにご承知のことと思いますが、この教育会議につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に伴い、教育委員会と地方公共団体の長が協議を行う場として平成27年度から開催されているものでございます。町長として大綱をまとめるということと、総合教育会議を設置するというところでございますので、この場において美幌町における教育問題について、皆さまとさまざまな意見を交わし、よりより教育行政に取り組んでまいりたいと思いますので、本日はどうかよろしくお願いいたします。本日は

本当にありがとうございました。

○田村教育部長 ありがとうございました。続きまして、教育委員会を代表いたしまして平野教育長よりご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○平野教育長 私から一言ご挨拶をさせていただきます。平成27年4月1日施行の「地教行法」の一部改正による「新教育長」として、昨年の9月に土谷町長から任命をされまして、1年を終えたところであります。

改正による「教育長」の役割をしっかりと受け止め、教育行政を取り進めて行きたいと考えております。

現在の教育は、様々な課題に直面しており、教育に対する社会の要請や、教育行政を取り巻く社会状況の変化に対応しながら、町民の信頼にこたえる教育を実現する必要があると認識しているところでございます。その中で特に、学校教育について申し上げますと、子どもが少なくなった今、子どもたちの成長は、「地域の希望」であります。

「地域の子ども」は「地域で育てる」ことを基本に、家庭、地域、学校と行政の4者が十分に連携を取りながら、教育委員会として、あらゆる課題に、正面から、前向きに、ぶれることなく解決していきたいと考えております。

今後は、土谷町長が教育の総合的な政策の方針として総合教育会議で定めた「教育大綱」の実現、今年度、教育委員会が示させていただきました、「平成29年度美幌町教育行政執行方針」を実現するために、しっかりと教育委員の皆さんと協議、皆さんの合意を得て、「顔の見える教育委員会」として、教育行政を進めていきたいと存じます。

全力で取り組んで参りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○田村教育部長 ありがとうございました。

3 教育委員紹介

○田村教育部長 続きまして、会議次第3、

教育委員紹介ということで、教育委員の皆さまをご紹介させていただきます。

はじめに教育長職務代理であります加藤委員でございます。

○加藤委員 よろしく申し上げます。

○田村教育部長 続きまして猪本委員でございます。

○猪本委員 よろしくお願いいたします。

○田村教育部長 続きまして久山委員でございます。

○久山委員 よろしくお願いいたします。

○田村教育部長 続きまして小川委員でございます。

○小川委員 よろしく申し上げます。

○田村教育部長 それでは、これより先の議事進行につきましては、土谷町長にお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

4 議 事

(1) 平成28年度教育委員会の主な事務の管理及び執行状況の点検・評価について

○土谷町長 それでは、お手元の教育会議の議案に従って進めさせていただきます。はじめに会議次第4、議事の(1)平成28年度教育委員会の主な事務の管理及び執行状況の点検・評価について、事務局から説明をさせていただきます。なお、会議の中でのご発言につきましては、着席で進めたいと思いますので、よろしく申し上げます。また、ご発言の際は挙手をお願いします。

それでは、事務局をお願いします。

○以頭学校教育主幹 (1)平成28年度教育委員会の主な事務の管理及び執行状況の点検・評価についてご説明をさせていただきます。資料番号1をご覧ください。

まず、1頁をお開き下さい。(3)点検・評価の対象でございます。点検・評価につきましては、平成28年度の事業実績を対象としております。

教育委員会会議の開催の状況などの教育委員会諸活動等の点検のほか、「美幌町教育目

標」や「平成28年度教育行政執行方針」に基づく主な施策・事務事業の実施状況について点検・評価を行ったものでございます。この点検・評価の結果報告書につきましては、8月23日に開催されました第5回教育委員会定例会において承認され、町議会9月定例会に報告するとともに、町民の皆さまに公表することにより、説明責任を果たすこととしているものでございます。

まずはじめに教育委員会の活動状況でございます。2頁からでございます。はじめに大変恐縮ですがお詫びを申し上げさせていただきます。2頁の2の(1)美幌町教育委員名簿のところの加藤委員の肩書きが(委員長職務代理)ということで記載となっておりますが、正しくは(教育長職務代理)でございます。大変申し訳ございませんでした。訂正してお詫びいたします。

それでは、平成28年度の教育委員会の開催状況でございますが、定例会12回、臨時会1回、合計13回、開催しております。内容といたしましては、議案41件、報告50件について審議をいただいたところであります。

協議会につきましては、5頁、6頁であります。12回開催いたしまして、協議21件、報告42件について審議いただいたところであります。次に各グループにおける平成28年度美幌町教育行政振興方針に基づく点検・評価でございますが、報告書の12頁から38頁に記載をしているところでございます。

学校教育グループにつきましては、12頁から23頁の22事業、学校給食グループにつきましては、24頁、25頁に記載の2事業です。社会教育グループにつきましては、26頁から30頁に記載の8事業であります。続きまして、図書館グループ分につきましては、31頁から33頁に記載の5事業でございます。続きまして、博物館グループ分につきましては、34頁から36頁に記載の5事業でございます。最後に、スポーツ振興

グループにつきましては、37頁から38頁に記載の3事業、合計45事業について点検評価をしたところでございます。

また、平成28年度社会教育事業の「第7次美幌町社会教育中期計画」に基づく評価としまして、社会教育委員による評価が行われたところであり、評価につきましては報告書の39頁から40頁に記載となっております。

続きまして外部評価でございます。外部評価につきましては、平成26年度から実施されており、今年で4回目の実施であります。

今年度の外部評価委員につきましては、前美幌町教育委員会指導主事でありました、鈴木憲治様と、北海道教育大学岩見沢校教授の山本理人様に外部評価をお願いしたところでございます。

報告書の41頁から51頁まで評価報告でございますが、「学校教育の推進」についてを鈴木前指導主事が、「社会教育の推進」につきましては山本教授に評価をいただいたものでございます。

最後に、教育委員による意見・評価であります。報告書の8頁から11頁までであります。

教育委員会の活動や各グループの事務事業について、各グループの評価を踏まえ、各委員から出されたご意見などを「評価・意見」としてまとめたものでございます。

なお、資料番号2「各施設の事業実施結果」、資料番号3「各施設の利用状況」の報告書となっておりますので、こちらは後ほどご覧いただきたいと思います。

以上ご説明いたしました。よろしく申し上げます。

○土谷町長 それでは只今ご説明いたしました平成28年度教育委員会の主な事務の管理及び執行状況の点検・評価につきまして、何かご意見等ございましたらお願いします。

(平野教育長挙手) はい、平野教育長申し上げます。

○平野教育長 只今、事務局の方から概要報

告がありました平成28年度教育委員会の主な事務の管理及び執行状況の点検・評価に係る教育委員会の活動状況について、少し、私の方から補足をさせていただきます。

平成28年度の教育委員会の開催状況につきましては、概要報告のとおりであります。特に活動状況のうち、土谷町長にご理解をいただきたい事項について、数点、報告させていただきたいと思っております。

平成28年度の教育行政執行方針の中で『引き続き、「顔の見える教育委員会」として、様々な教育課題について、積極的に取り組んで参ります』と示させていただいておりますが、毎年、教育委員会の活動が町民の皆さまにご理解いただけますよう、積極的に活動をさせていただいており、いろいろな教育関係者との懇談や施設訪問等を、多く行っております。

具体的にお話しをさせていただきますと、一点目として、校長会との懇談、PTA連合会役員、評議員との懇談、美幌高校の視察・意見交換を実施しております。二つ目として、学校を理解するため、全体では、2回の学校訪問、各教育委員におかれましては、公開授業や研究会に独自に参加をしていただいております。三点目として、社会教育施設の視察ということで、事業の見学や、28年度については社会教育委員と懇談を初めて実施しております。四点目として、毎年あります全道の教育委員大会にあわせまして、先進地視察ということで、実際には先進学校、28年度については、札幌市2校を視察させていただきまして、その状況等について、校長会に報告を行っております。

その他、総合教育会議に向けた協議や点検評価報告書の作成のために協議を行ったり、日常的にも集まっておいただき、教育委員会としての情報共有や意思疎通を図っていただいているところであります。

このようなことから、各教育委員におかれましては、平成28年度は、積極的な活動や関わりを持っていただいたと考えております。

ので、報告をさせていただきます。

引き続き、「びほろの教育」の向上のために、各教育委員、職員、一丸となって、積極的に取り組んで行きたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

○土谷町長 ありがとうございます。その他、ございませんでしょうか。（加藤委員挙手）加藤委員お願いします。

○加藤委員 先ほど以頭主幹の方から執行状況の点検・評価の概要報告がありましたけれども、その中の、教育委員による意見、評価等について、意見を述べさせていただきたいと思います。

まず第一点目に、教育委員会についてでありますけれども、教育委員会制度ですが、昨年9月に新制度による新教育長として、平野教育長が再任され、積極的に教育行政を推進しております。多くの、また多種多様な教育課題に向き合うためには、引き続き、社会教育の関係者、学校教育の関係者から多くの意見を聴く機会を設け、しっかりと教育委員の中で議論を進めていきたいと考えております。

今後、「顔の見える教育委員会」づくりを継続していきたいと考えますし、教育委員会の考えについても、積極的に町民の皆さまにも発信する機会が大事であろうと考えております。

私自身も、研修会や講演会に積極的に参加したいと考えているところであります。自己研鑽に努めながら、教育の向上に役立てていきたいと考えております。

またもう一点、学校教育グループについてでありますけれども、美幌町の小中学生の学力についてですが、「全国学力・学習状況調査」におきましては、小学校において、全道、全国平均を残念ながらすべて下回っております。しかしながら、昨年の正答率と本年の正答率とを比べてみますと、全ての科目で本年は昨年を上回ってきております。これは、小学校教育支援員配置事業や小学校3校による授業改善推進チームの活用事業によ

り、子ども達の学力は、確実に、着実に進んでいると考えられるところだと思っております。

きめ細やかな教育を目指して、小学校で実施していただいています35人以下学級の継続、またICT機器の年次の整備、特別支援教育における介助員の配置など、ぜひ今後とも継続をしていただきたいと考えますので、支援のほど、よろしくお願い申し上げます。私からは以上であります。

○土谷町長 ありがとうございました。その他どなたかございませんか。（猪本委員挙手）はい、猪本委員お願いします。

○猪本委員 教育委員による意見、評価等について、意見を述べさせていただきます。学校教育グループについてです。一点目に、指導主事や教育専門相談員などの各相談員の取組みにより、学校経営の改善や不登校問題への着実な対応が図られて、さらなる指導に期待をいたしているところであります。引き続き、支援をお願いいたします。

二点目として、準要保護児童・生徒就学援助費の支給対象となる保護者に対して、他の市町村に先駆けて、入学準備金の早期支給を進め、保護者への経済支援による学習環境の充実を行ったことは、大きな成果であり、実施に向け判断をしていただきました土谷町長に深くお礼を申し上げます。

次に、社会教育グループについてです。一点目として、28年度からスタートいたしました、「第7次社会教育中期計画」について、計画に沿った事業が進められていることを評価するとともに、今後も円滑な事業推進を期待しております。

二点目で、「びほーる」は、町内外から高い評価をいただいておりますが、町民会館改築の中での年間利用率が75.7%であるということに、関係者の努力に高い評価をしたいと思います。しかし、夜間の他の駐車場の場所がわかりづらく、案内に工夫をする必要があると感じておりまして、また町外から来られる方が「びほーる」の場所がわかりづら

く、案内の看板などの設置をお願いしたいと考えております。余談になりますが、町内における公共施設の案内看板も不足しているように感じています。

多くの町民の方々が「びほーる」を訪れるよう、更なる利用推進を文化振興につなげていただきたいと考えております。今後とも、よろしくお願いいたします。以上です。

○土谷町長 よろしくお願ひします。ありがとうございました。次にどなたか。（久山委員挙手）久山委員お願ひします。

○久山委員 私からも意見を述べさせていただきますと思います。

まず最初に、博物館グループの活動でございます。毎年、博物館においては特別展、企画展をやっています。非常に好評であり、充実した事業展開が図られています。特に、「相生線でGO」、それから現在もやっていますが、むかしの小学校の企画展、非常に多くの方々に来館をいただいております。大変うれしく思っております。また、博物館の活動の中での学校との授業の連携につきましては、非常に多くの回数、また幅広く推進が図られているところです。今後とも町民に親しまれる「博物館づくり」に期待をしているところであります。

その中で、施設につきましては、かなり年数が経っておりまして、冷暖房の空調設備の改修、入口の改修をさせていただきました。今後は、周辺環境整備、特に駐車場の整備など、道路の整備、猪本委員からのご発言がありましたけれども、案内看板など、更なる利用推進に向けての努力を今後ともしていきますし、町長からもぜひ理解とご協力をお願いしたいと思います。

もう一点でございますが、スポーツ振興グループについてでございます。美幌町民のスポーツに対する関心度、また参加者数は非常に多いのではないかと考えております。美幌町のスポーツを楽しめる環境は非常に整ってきていると思いますが、スポーツ施設の改修を含め、今後、全体的に見直して計画的な改

修が必要ではないのだろうかと考えております。その中で、教育委員会として懸案でありました屋内多目的運動施設の整備が明確になりました。大変うれしく思っております。今後とも町のお力もお借りしながら施設の整備、また運動に関する者たちが積極的に楽しんで活動できるよう、環境整備をしていただきたいと思っております。今後とも町長のご協力ご理解をお願いしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

○土谷町長 よろしくお願ひします。（小川委員挙手）小川委員お願ひします。

○小川委員 私からも、「教育委員による意見、評価等」について、意見を述べさせていただきます。

図書館グループについてであります。はじめに、読書習慣の定着について発言させていただきますと、ブックスタート、ブックセカンド事業により、幼少期における読書習慣は確実に定着しており、28年度から実施しました「子ども未来絵本036事業」は大変評価しているところです。今後も、更なる充実を期待しているところでありまして、引き続き、土谷町長のご理解とご協力をお願いいたします。

次に、蔵書冊数などのソフト面は充実しつつあると言われますが、書架設備などのハード面での課題は多くあり、建物が築後37年も経過していることから、第6期美幌町総合計画に増改築の検討が盛り込まれたことに、心から喜んでおります。

今回、役場庁舎の建設の話をお聞きし、複合施設として、図書館の併設検討の話が聞こえてきております。今後、役場庁舎建設協議の中で、教育委員会と十分な協議を行っていただきますようお願いいたします。

併せて、図書館が学校に多く関わっておりますが、各学校の学校図書館関係教員や校長から組織する美幌町学校図書館協議会より「学校司書」の配置を強く要望されており、子どもたちの読書力が、基礎学力の向上に大きく影響するため、「学校図書館の充実」と

「学校司書」の配置を強く要望し、土谷町長のご理解と協力をお願いいたします。

私自身も、教育委員として2年目を迎え、多くの事業への参加や視察をさせていただき、また多数の方々からご意見をいただいております。今後も、自己研鑽に努めながら、教育委員として、びほろの教育向上に努力して行きたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

○土谷町長 よろしく申し上げます。ありがとうございました。何点か、今回の定例会においても一般質問で出てきているものがあります。例えば、町内の案内の掲示についても非常にわかりにくいのではないかと、一部の施設について、教育委員会のものも一部あるんですけれども、スポーツセンターのところの表示がわかりにくいというようなことも含めて、実は私も日頃から感じておりまして、美幌町は非常に案内板あるいは案内表示が少ないのかなと思っていますので、これについては年次的にどうできるか、いずれにしろ一気にやるということになるとなかなか難しいので、年次的にでもいいと思いますのでしっかりと取り組みをしていきたいと思っておりますので、この点についてはよろしくお願いしたいと思っております。

あと、小川委員の方からお話がありましたように、ブックスタートであるとか036事業に更に努力をしていただきたいという思いを述べられましたけれども、正にそのとおりだと思いますので、引き続き努力をして参りたいと思っておりますのでございます。

それから、図書館の庁舎との複合施設化についても今回の定例会の中で多分話題になってくるのではないかなと思っていますところであります。複合化についてはいずれにしましても、次の基本構想に向けて教育委員会に指示をしっかりとしますので、その中でどういったことができるのかについては、教育委員会内部も含めて委員さんとの話をしっかりとさせていただいて、これについてはしっかりと対応をして参りたいと思っております

ので、どうかご理解をいただきたいと思っておりますのでございます。

あと、私がこのように関与できるということになりましたので、引き続きよろしくお願いをしたいと思います。ありがとうございます。これについてはよろしいでしょうか。

○構成員一同 （はいとの声あり）

（２）意見交換

○土谷町長 それでは、次に意見交換ということで、特に案件は用意しておりませんが、何か教育行政全般についてご意見等がありましたらお願いします。教育長、何かありますか。

○平野教育長 特に用意しておりません。

○構成員一同 （特にありませんの声あり）

（３）その他 ①いじめ問題の対策について

○土谷町長 それでは、（３）その他ということで、①いじめ・不登校問題の対策について、事務局から説明をお願いいたします。

○田村教育部長 それでは、資料番号の4でございまして、いじめ・不登校問題の対策について、説明をさせていただきたいと思っております。

はじめにいじめの関係でございしますが、美幌町の取り組み状況といたしましては、「美幌町いじめ防止基本方針」に基づきまして、平成27年6月に方針の方を策定しております。併せまして、「美幌町いじめ問題対策連絡協議会」を設置しているところでございまして、この「いじめ問題対策連絡協議会」につきましては、年2回程度開催をしております。「いじめの把握のためのアンケート調査」の結果につきまして、各学校における状況報告、対応について、情報交換を行っているところでございます。

次に2の「いじめの状況」でございまして、これにつきましては、年2回、6月と11月

にアンケート調査を実施しておりまして、その報告によるものでございます。平成26年度の件数でございますが0件であります。27年度は小学校で2件発生しておりまして、平成28年度におきましては小学校で66件、中学校で9件発生しているところでございます。28年度の方で27年度と比較いたしまして件数が大幅に増加している状況となっておりますが、理由といたしましては、表の下に※の1番で記載をしておりますが、平成28年度からいじめの定義が厳密になったということで、初期段階のいじめ、ごく短期間のうちに解消した事例についても認知件数となることから大幅に増加をしているものでございまして、その後、対応いたしましていずれも解消をしている状況となっておりますのでございます。

平成29年度の認知件数で、これは6月の調査でございますが、小学校で32件、中学校で2件ございました。このうち解消件数が0件となっておりますが、これにつきましても、いじめに係る行為の解消の基準が、行為が止んでいる状態が3か月継続をしていることとされていることから、6月に調査をしているということで、解消件数については0件と表示をしているものでございますが、実質は32件全て解消をされている状況でございます。

次の頁をご覧くださいと思います。いじめの態様でございますが、記載の表のとおりの内容となっております。なお、小学校の件数が先ほどのいじめの認知件数とは合っておりませんが、これは複数の回答によるものとなっております。

続きまして、いじめの発見・相談相手でございます。いじめの発見につきましては、やはりアンケート調査による発見が多く、相談状況も学級担任への相談が多くなっている状況であります。

5番目に「いじめ」の定義の変遷を記載してございますが、これにつきましては後ほど確認をお願いしたいと思います。

続きまして、不登校の状況につきまして、「何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因や背景により児童生徒が登校しない、あるいは、したくてもできない状態にあること」と定義をされておまして、30日以上欠席者を対象としているものでございます。以下、文科省の「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」結果を参考といたしまして、美幌町の実態をまとめたものでございます。一番目の不登校を理由とする長期欠席児童・生徒数の推移であります。平成21年度から年度ごとに人数をまとめたものでございまして、平成28年度では小学校で4人、中学校で16人、合計で20人が不登校となっている状況でございます。小学校、中学校ともに前年度より増加しているところでございます。

続きまして、(2)不登校児童生徒への指導結果状況でございますが、指導の結果、登校する又はできるようになった児童生徒につきましては、平成28年度で小学校が1件、中学校で11件、合計で12件となっております。次に、指導中の児童生徒につきましては、平成28年度小学校で3件、中学校で5件、合計で8件、前年度と比べまして3件の減ということです。登校には至らなかったが好ましい変化が見られた児童生徒につきましては、小中学校ともに0件という状況でございます。

次の頁でございます。(3)不登校児童生徒の状況分析で、不登校となったきっかけと考えられる状況であります。小学校では、いじめ問題、学業不振、親子関係をめぐる問題などがあげられているところでございます。中学校では、学業不振の人数が増えておまして、加えて、進路にかかる不安などもあげられているところでございます。小学校、中学校ともに、親子関係をめぐる問題が共通しておりますが、不登校の傾向といたしましては、家庭の「学校へ行くべきである」という姿勢が弱くなった傾向にあると感じていると

ということで、相談室の方から聞いているところでございます。

最後に、指導の結果、登校するようになった児童生徒に効果があった学校の措置といたしまして、記載のとおりとなっているところであります。学校における不登校の対応でございますが、不登校になったきっかけとしましては、体調不良と家庭の方から訴えられることが多いようでございますが、その中には学力不振や友達、教師などの人間関係のトラブルが原因として潜んでいることも多いと言うことで、疑って対処をするなど適切な初期対応が望まれているところでございます。相談室といたしましても、学校訪問などを通して、不登校生徒の状況把握、それから学校の取り組みの確認など、学校と連携を図りながら家庭訪問、相談活動に積極的に取り組んでいる状況でございます。以上、説明いたしました。よろしくお願いいたします。

○土谷町長 それでは、いじめ・不登校関係について、ご説明させていただきました。ご質問、ご意見等ございましたらお願いしたいと思っております。

○構成員一同 （ありませんの声あり）

○土谷町長 よろしいでしょうか。それでは次に進めさせていただきたいと思っております。

②平成29年度全国学力・学習状況調査について

○土谷町長 次に、②平成29年度全国学力・学習状況調査について、事務局から説明をさせます。

○三浦指導主事 このことにつきましては、私、指導主事三浦が説明させていただきます。資料番号5をご覧ください。

まずはじめに、平成29年度全国学力・学習状況調査結果の速報が8月28日に公表されております。今回の全国学力・学習状況調査については、全国の公立小学校6年生、中学校3年生の全児童・全生徒が参加して、全ての市町村や学校等の学力の状況等の把握の

ために、平成25年度から実施されているところでございます。

美幌町の小中学校別の状況概要については、本日、ご説明申し上げます学力調査の結果だけでなく、学習状況調査の結果も含めて、広報10月号で町民の皆さまに公表したいと思っております。また、更なる具体的な詳細については、別途、ホームページ等でも公表いたします。

本調査結果は、学校における教育活動の一側面であって、学力の全てを表しているものではありません。しかし概要をお知らせすることによりまして、美幌町の子どもたちの学力等の状況について、感心を持っていただければと考えております。

本町のモットーは、「地域の子どもは地域で育てる。」でございます。その視点の中で、美幌町の子どもたちの学力・学習についても、町民全体で育てていければと考えております。土谷町長におかれましても、ぜひご支援ご協力をよろしくお願いいたしますと思っております。

それでは具体的に見ていきたいと思えます。まず2の全国学力・学習調査の内容、概要でございますが、本年度の調査は、4月18日に実施されております。対象は、小学6年の全児童と中学3年の全生徒です。人数については、本町の場合、小学6年の、A問題については3校で165名でしたが、児童一人の体調不良がありまして保健室で静養したため、B問題については、1名減の3校で164名となっております。中学校3年については、全ての問題を全生徒が受けており、2校で172名という数字でございます。

内容については、A問題は、「知識」に関する問題、B問題は、主に「活用」に関する問題でございます。今回は、時間の関係で紹介できませんが、学校と児童生徒に対して質問紙による「学習状況調査」も行われております。

本町の学力結果の概要でございます。調査結果の概要について、全国と北海道の平均正

答率をもとにした美幌町の状況について、ご説明申し上げます。表をご覧くださいと思います。なお、今年度から過度の競争を招かないということで、数値については小数点以下の切り捨てで正数で示されております。平成29年度の本町結果につきましては、平均正答率による全国・全道との差が全てマイナスと言うことが示されていますので、結果的に平均を上回った教科はございませんでした。しかし、全国・全道との差については、昨年度より縮小してきております。その全国との差を昨年度と比べてみますと、今回、小学校6年生については、国語・算数AB問題全てについて、全国との差が縮小しております。特に算数Aについては6.6ポイント、算数Bで5.8ポイントと5ポイント以上差が縮まっていることとなります。中学校3年生では、数学Bの差がマイナス10.4からマイナス6.1と、昨年と比べて4.3ポイント縮小しております。

また、別な見方で見ていきますと、今年度の結果に着目して、全国との差を見ていきたいと思います。小学校6年で、全国と最も正答率の差が少ないのは、緑色で示しました国語Aで、正答率は1.8%の差、正答数で0.3問差ということで、ほぼ全国と並ぶようになりました。最も差が大きかったものについては、ピンク色で示しました国語Bで、正答率で7.5%の差、正答数で0.7問差です。昔は1問差と言っておりましたから、差は縮小されています。ただ、先ほども言いましたように、前年度より5%以上、差は縮小しております。中学校3年で見ていきますと、全国と最も正答率の差が少なかったのは、同じく緑色の国語Aでございます。正答率は5.4%の差、正答数で1.8問差でございました。逆に最も差が大きかったのは、ピンク色でございます。国語Bで、正答率で8.2%、正答数で0.8問差でございました。しかし、昨年度よりは、どちらも差が広がってしまいました。

今回は、小中学校とも国語Bの問題が全国

との差が最も大きくなりました。例年ですと、最も差が広がるのは算数・数学のB問題ですので、今回は小中学校ともに、算数・数学を頑張ったのではないかとされています。先ほど加藤職務代理者も述べられておりましたが、各校の校内研修の充実の取り組みや教育支援員等の習熟度別指導による取り組みの成果でもあると言えます。しかし、正答率自体は、小学校算数で40%、中学校数学で42%と、半分以下ということについては、まだ課題と言えると思います。

最後に、各校では、この学力・学習状況調査結果の詳細について、分析をしているところです。その分析にあたっては、各校には、「下位層の改善が図られたか。」「無回答率の改善が図られたか。」ということ、共通の視点として、分析していただくことになっています。

また、各校の公表についても、美幌町が公表した後に、それぞれ「学校だより」等で、保護者・地域に公表することになっています。教育委員会としても、広報の他に、更に細かい分析をしまして、随時お知らせしていければと考えております。

家庭・学校・地域がより強固な連携で、取り組みを共有しながら、美幌町の子どもたちのために、更なる学力向上を目指していきたいと思いますので、皆さまのご指導・ご支援を、よろしくお願いいたします。以上でございます。

○土谷町長 それでは只今説明のありました全国学力・学習状況調査についてご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

○構成員一同 （ありませんの声あり）

○土谷町長 ありませんか。よろしいでしょうか。それでは次に進みます。

③美幌高等学校について

○土谷町長 ③美幌高等学校について事務局から説明をさせます。

○平野教育長 美幌高校については平野から

お話しをさせていただきたいと思っております。資料番号6をお出しいただきたいと思っております。美幌高校についての対応につきましては、町長の許可をいただきまして教育委員会がしっかり関わっていくということで進めさせていただいております。その中で、近年、普通科と農業科がある訳ですが農業科に対する入学者が少ないということで、学科の減少も含めて非常に危惧する中で町長といろいろ相談をさせていただきながら、生徒募集に協力をしていることでもあります。今日は資料6において、今の状況を再度、教育委員、町長と確認した中で、これから様々なことを相談させていただきたいと思っております。

まず一番目に「美幌高校への入学者」ということで、平成29年度、今年度につきましては48名、定数が80名に対して48名です。それから農業科は40名に対して7人、これがかかなり落ちております。農業科のもう一つ、地域資源については40名に対して32人、合計が160名の定員に対して87名であります。地元からの入学者が74名ということでもあります。「農業科への町内・町外の入学者数」ということで、4年間の比較をしております。生活環境科学科では、28年、昨年度は町内が10名の町外が6名でした。今年度は、町内が1名に対して町外が6名という結果でございます。内訳としては、6名のうち5名が北見から、1名が置戸であります。平成28年度の6名というのはいろいろなところから来ていただいております。置戸、旧東藻琴、旧女満別町、それから別海、神戸から6名が来ておりますが、平成29年度については、北見が5名、置戸が1名という状況であります。そして、地域資源応用科についての2名につきましては北見と網走から1名ということでもあります。

三番目として「町内中学卒業者からの美幌高校への入学者」ということで、平成29年度、美幌から卒業した生徒は158名であります。美幌高校へは74名、割合は46.8%ということなので50%以上が町外に行ってい

るということでもあります。子どもたちがどの学校を選択するかというのは、中々私どもからここにしなさいとは言えない状況ではありますが、地元の唯一の学校を守るという観点から言えば、何とか46.8%をまず過半数を超える、できれば60%ぐらいにしたいと思っております。今日も美幌高校との教育委員さんとの懇談をさせていただいた中で、学校自身も、私どもが地元へ行ってくださいというのは中々言いづらい部分、言うならば魅力ある学校づくりをしてもらわなければどうしようもできないということの中で、この46.8%についてはやはり先生方と一丸となって学校の魅力づくりをしっかりと、丁寧な指導の下に何とか数値を上げたいというをおっしゃっておりました。

四番目に、美幌高校から町長へ要望書が出されております。すでに教育委員さんにはお配りしておりますが、8月17日に美幌高校寄宿舎の運営助成ということの要望が来ております。現在の入寮生は8人、3年生が6人、それから2年生が2人ということで、3年生が抜けたときに2名しか残らないという話であります。

今日の学校の説明の中で、一日体験入学をした中で、まだ中学校の三者面談をしていないので最終的な決定はまだこれから先ですが、一日体験入学の中では地方から4名の方がぜひ来たい、と言うことは寮に入って美幌に行きたいという意思表示をされた方がいたという話をされておりました。

最後になりますが、公立高等学校の配置計画、平成30年度から平成32年度までの分が示されております。この内容を私どもに関係する部分だけをまとめてあります。平成31年度には、北見柏陽高校が1クラス減と、6から5に40名の減、それから北見商業高校が2クラスから1クラス、40名減ということです。平成32年度についてはオホーツク中学区の学級は減なしということですので、私どもの美幌高校に置きかえてみれば、平成32年度までは美幌高校は現状維持をし

ていただけるという考えであると考えております。ただ、また来年、31年から33年までの配置計画に向けては、先ほど2番目で見たとおり、生産環境科学科が昨年度までは何とか20名に近かったのが今年度は1桁台です。この辺をしっかりと高校には努力をしていただき、また私どもとしてはここにきていただく方々の増員に協力しなければいけないのかなという状況であります。一応、今の現状だけを、共通認識を持っていただくということで報告をさせていただきました。以上であります。

○土谷町長 はい、それでは美幌高等学校についての説明がありました。ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。（加藤委員挙手）加藤委員お願いします。

○加藤委員 私から、美幌高校の生徒確保について、一言、発言をさせていただきたいと思います。美幌高校につきましては、ただいま平野教育長から説明をいただきました。また、その説明の中にもありましたけれども、本日、私ども教育委員、美幌高校の方におじゃまさせていただきまして、授業の様子を見させていただき、懇談を行ってまいりました。美幌高校の状況というものをいろいろ話をお聞きしまして、今の状況というものを認識したところでございます。また、今年度から、農業科に係る町外からの入学者に対して、支援をすることを決断されたことに関しましては、心から敬意を表するところであります。教育委員会としましては、教育長を中心に、管内、また管外の中学校にも美幌高校の田村校長と訪問をして、生徒募集の協力をしているところであります。また今後も引き続き、協力していく考えでございます。美幌高校も町内のさまざまな行事等にも積極的に学校として生徒さんたちを美幌の小学校、中学校の子どもたちと顔を合わせる機会を率先して設けていただく努力もしております。そのようなこともございますので、ぜひ土谷町長におかれましては、今のこの支援を引き続

きお願いしたいと思っておりますし、また新たなる美幌高校への支援というものも検討していただきたく、お願いを申し上げるところでございます。以上、よろしくお願いいたします。

○土谷町長 はい、ただいま加藤委員の方からございました。その他、ございませんでしょうか。

○構成員一同 （特にありませんの声あり）

○土谷町長 美幌高校も実は、地域資源応用科と生活環境科学科の生徒に対して、助成を今年から始めると言うことで、はたして効果がどうかと思っているんですけども、ややちょっと、付けた段階で低かったかなという印象を持たれたのではないかなと思ってます。ただ、学校に対してはやっぱり基本的には学校の魅力づくりをしっかりとやっていただいて、その上で我々が何ができるかということをしかりやっつけていかなければいけないのではないかなと思っていますし、また学校で言えない道教委に対する要望等を我々が受けて、地域として要望を道教委に対して行うことも構わないことだと思いますので、その点については積極的に我々もやっていきたいと思っています。今後ともいろいろお世話になると思いますけれども、よろしくお願いいたします。これについてはよろしいでしょうか。

○構成員一同 （はいとの声あり）

○土谷町長 それでは、この他に全体的に何かございましたらお願いします。事務局の方から何かありますでしょうか。

○田村教育部長 事務局の方で用意しているものはございません。

○土谷町長 それでは教育長、教育委員の皆さんから何かありましたらお願いします。

○構成員一同 （特にありませんの声あり）

○土谷町長 よろしいですか。それでは、本日の議事については、以上で終わらせていただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

閉 会

○田村教育部長 大変、お疲れさまでした。
今後、今年度に第2回目の総合教育会議の方
を、開催したいと考えているところでござい
ますのでまたよろしく願いしたいと思いま
す。

それでは、以上をもちまして、平成29年
度第1回美幌町総合教育会議を閉会させてい
ただきます。

どうもありがとうございました。

17時04分 閉会